

ツリガチ!

秋の外房SLJ

文◎高橋剛

★こんなことが、現実に起きていいのだろうか……。不安っぱいなオープニングだった外房・勝浦沖のSLJは、実にドラマチックなエンディングが待っていた。シケ後の海を舞台に繰り広げられた、5時間半の「映画」は、見応えたっぷりだ!

この状況は……



▲SLJ用のタンクステン製テールスピニング「パンブルズ バイトビーンズTG」。ボディの前方腹側に重心があり着底するとルアー上方にアシストフックがくるため根掛かりしにくい



★パンブルズ バイトビーンズTGはマダイや青物、根魚などの実績が高い

「よし、巻きか」とパンブルズバイトビーンズTGに変更した。
「やったじゃん!」と、タカハシゴー以上にガチで喜ぶヨッシー。アタリがあり、魚が釣れるということは、かくもシアワセなことなのだ。
「着底して、ゆっくりと2〜3回巻いたところで食ってきた」とタカハシゴー。SLJならヘタツピでも釣れることを、身を

「今のはアジの『おやつタイム』。襲われる心配がないから、のんびりとジグを、おつまみにして楽しんでる状態だよ」
若干落胆の表情を見せるツリガチ取材班に、ヨッシーが明る

「アジの捕食スタイルは、吸い込み系。だからジグが変な動きをしていると、うまく食いつくことができるんだよ」
できるだけ糸フケを出さないようにして、ゆっくりと直線的に動かしてやるといいよ」
ヨッシーのレクチャーどおりのアクションで、アジがバタバ

オープニングは、暗い音楽が流れている(頭の中で)。短調の不吉な曲が、悲哀をかき立てる。外房勝浦沖津港の不動丸で、スーパーライトジギング(SLJ)に挑むツリガチ取材班だが、前日まで大シケだった。
外房の海には大きなウネリが残っている。吉清晃朗船長も「昨日は船を出してないから、海の様子が分からなくて……」と、少しばかり弱気である。
澄み切った紅色の朝焼けが気持ちいい朝だったが、ヨッシーこと吉岡進プロを始め、釣友のイチロウこと鹿島一郎さん、トモキこと板倉友基さん、そしてライターのタカハシゴーは、重い足取りで不動丸に乗った。
10月27日午前6時、不動丸が港を離れる。見送ってくれたおかみさんの元気な笑顔とは対照的に、ツリガチ取材班は不安いっぱいだった。
基本的に、SLJはよく釣れる釣りだ。
「船でのルアー釣りの中では、最もアタリが多いんじゃないかな」と、ヨッシーも言う。
「ターゲットを絞り込むことが多い船のルアー釣りだけど、SLJは、その場にいるフィッシングユイターをすべて狙うフリースタイル。根魚から青物まで幅

広く狙うから、アタリが出やすいんだ」
ジグを落とし、着底させ、底付近はネチネチとゆっくり誘って根魚のアタックを待ち、宙層から表層にかけてはスピーディーなワンピッチジャークで青物をその気にさせる。
ジグは40〜80グラムが中心と軽く、それに合わせて竿はライトでリールも小型だ。シャクリの動作もラクチンで、ビギナー

「マズイ……」と焦り、しかも面のヨッシーを横目に、濁りのヤバさにさえ気づかないタカハシゴーが、語り続けている。
「自他ともに認める『永遠の初心者』であるオレでさえ、SLJでは何かしら釣って帰ってくるからね。ホント、ヘタツピにも優しい釣りなんだよ」
あまりの濁りから逃げるように吉清船長がポイントを変えた直後、「あつ」と短い叫び声をあげたのは、だれであろうタカハシゴーその人であった。
釣り開始から25分ほどたった午前6時55分、不吉な予感を打ち破る最初のアタリである。(架空の)BGMが一転して明



▲当日は片舷に並びドテラ流して探っていた

もって再証明して見せた。
タカハシゴーの1尾目を皮切りに、不動丸はアジフィーバーに沸いた。
釣れる、釣れる!
外房でアジがこれほど豊かに釣れることにも驚きだが、それ

「考えてみてよ」とヨッシー。
「アジは、どちらかと言えばフィッシュユイターに食われる側の魚。そのアジがこれだけノビノビとジグを食いくるということは……」
……ハッ!
アジが釣れて満面の笑みだったツリガチ取材班の表情が、一気に引き締まる。

アジが釣れて満面の笑みだったツリガチ取材班の表情が、一気に引き締まる。
そう、アジを狙うような根魚や青物がない、ということだ。もしくは存在していても、食いがいい、ということ。つまり、我われツリガチ取材班のジグにアタックしてやる可能性は低い、ということだ。

「アジの捕食スタイルは、吸い込み系。だからジグが変な動きをしていると、うまく食いつくことができるんだよ」
できるだけ糸フケを出さないようにして、ゆっくりと直線的に動かしてやるといいよ」
ヨッシーのレクチャーどおりのアクションで、アジがバタバ

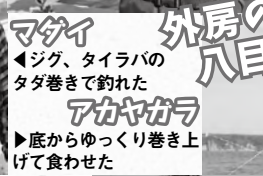
当日のルアー船で見つけた 外房のSLJで 釣れがちな魚たち



ソウダガツオ
◀イワシ団子に着いた群れを狙い撃ち



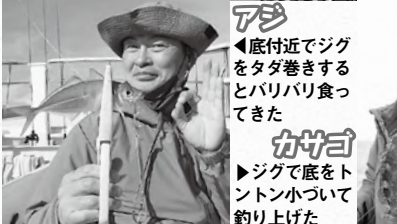
シイラ
▶表層でジグを早巻きするとシイラがチエイス



マダイ
◀ジグ、タイラバのタダ巻きで釣れた



アカヤガラ
▶底からゆっくり巻き上げて食べた



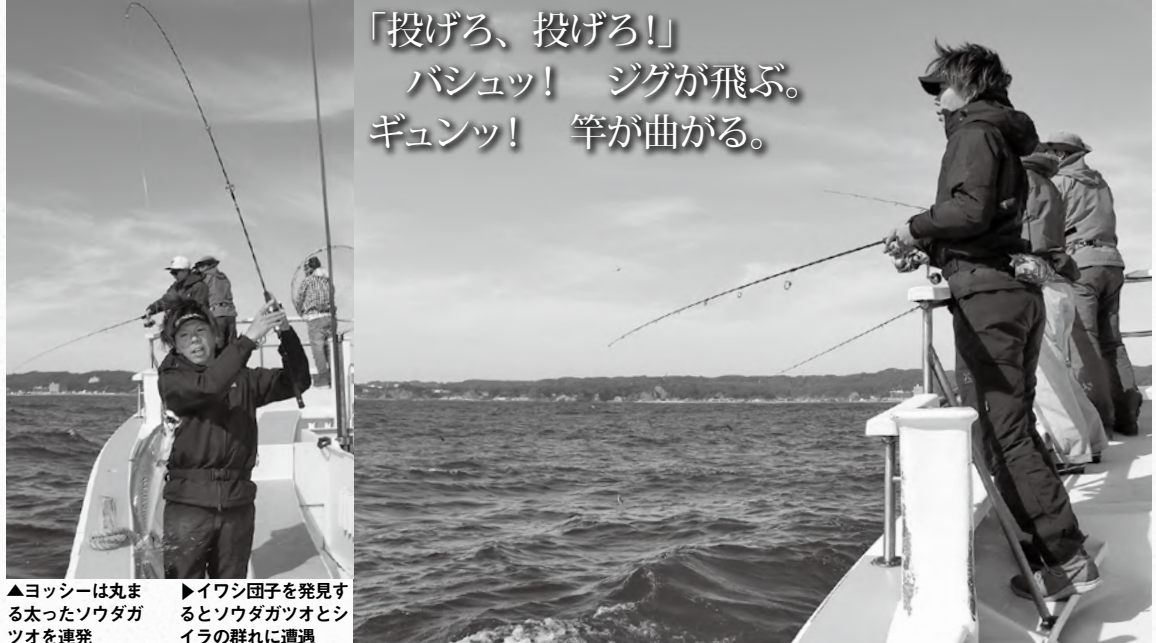
アジ
◀底付近でジグをタダ巻きするとバリバリ食ってきた

イサキ
◀タダ巻きでもフールでもチャンスあり



キジハタ
▶底上2メートルでスローなジャークに反応した

カサゴ
▶ジグで底をトントン小づいて釣り上げた



「投げろ、投げろ！」
バシュッ! ジグが飛ぶ。
ギョんッ! 竿が曲がる。

▲ヨッシーは丸まるとったソウダガツオを連続
▶イワシ団子を発見するとソウダガツオとシイラの群れに遭遇



▲トモキのSLJ専用ロッドが大きな弧を描き、注目が集まるが……

「はい、そろそろ時間が過ぎましたね。これで最後の流しにしましょうか」と、吉清船長がアナウンスしたのは、午前11時30分ちようどのことだった。
「最後の流し」という言葉に人並み以上の反応をするのが、タカハシゴである。締め切りになると気合が入るライターの性か土壇場になって本気を出す。「せつてえ根魚釣りたい」と、「底ネチネチ」に徹する。彼のつたないイメージでは、底から2メートルあたりをジグが横に泳ぐようなアクション、をししているつもりだ。
そして最後の流しという緊迫感、奇跡によって打ち破られた。タカハシゴの竿がヒン曲がったのである!

クダ。船の下をシイラ艦隊がハイスピードで通過していく。イワシ団子が見えなくなるまで、ツリガチ取材班を楽しませてくれた。
アジ、イサキ、マダイ、イワシ団子、ソウダガツオ、シイラ、そしてトモキのリーダーを、フツちぎっていった謎の怪物……すでに出来過ぎだ。SLJら

「うおおっ、ゴーさんやっちゃったんじゃないの!」
「またしても本人以上に喜びの雄叫びをあげるヨッシー。」
「う、うん……」
根元まで竿が曲がり、タカハシゴに余裕はない。最後まで最後。そして、根魚っぽい引き。これはバラせない……。
慎重に慎重を重ねたやりとりをして、吉清船長のネットに収まったのは、まさかのキジハタだった。
大コーフンのルツボと化した不動丸であるが、その直後にトモキが再びタイラバでマダイを釣る。さらにヨッシーの竿までもプチ曲がり、60グラムのバイトビーンズをスッポリと食ってきたのはアカヤガラだ。

しい豊かなバラエティで、十分に満足している。
だが、ぜいたくなツリガチ取材班には、若干の不満があった。「根魚、釣れないよね……」
「トモのお客さんがカサゴを釣っていたが、ツリガチ取材班に根魚はセロ。SLJのメインターゲットと言ってもおかしくないのだが……」



▲最後の流しで新たにキジハタとアカヤガラの2魚種を追加

「いやあ、ものすごいフィナーレだったね」と、心から満足げなヨッシーである。
「SLJは、竿が曲がる瞬間が最高ですよ!」と、吉清船長も満面の笑みだ。
映画だとしても、こんなにも濃密で、こんなにもエキサイティングで、こんなハッピーエンドもそうはない。
外房の海が見せてくれた5時間半のドラマは、こうして実に劇的に幕を閉じたのだった。

タと釣れる。楽しい……。
と、(架空の)BGMがいきなり緊張感の高い曲調に変わった。映画「ジョーズ」の、あの音楽のようだ。そう、バタリとアジが釣れなくなったのだ。
「これは……チャンスかもしれないよ」とヨッシー。不意に静まり返った外房の海。何かが起こる予感。
「キタッ!」
叫んだのは、トモキだ。大きく曲がった竿が、カンカンカンッという硬い引きでたたかれる。「おお、マダイじゃないの!」
ヨッシーの叫び声のとおり、上がったきたのはマダイだった。トモキはこっそりとタイラバにスイッチしており、見事に釣果に結びつけた。
その直後、イチロウもピンピンメタルTG40グラムでマダイを上げる。トモキもイチロウも、

「残念! たぶん良型のマハタかな……」とヨッシー。
それにしても見事なまでに、アジの食い、そのアジを狙うフィッシュイーターたちの食いは運動している。
「なんだこれ……!」
すさまじい引きだ。ライトなタックルだから、大きく曲がった竿がワクワクさせてくれる。これはガチファイトになるぞ! パンツ!
竿が跳ね返った。トモキが苦しい表情になる。ラインブレイクだ。リーダーがブツブツと切られてしまった。
「残念! たぶん良型のマハタかな……」とヨッシー。
それにしても見事なまでに、アジの食い、そのアジを狙うフィッシュイーターたちの食いは運動している。

ブルズバイトビーンズTGに変更した。ルアーのテールにブレードを装備した、新しいSLJ用ルアーだ。
そして2投目、「キタよ!」と顔をほころばせると、見事にマダイをゲットしてみせた。
フィッシュイーターたちがいない、もしくは沈黙していると、アジが元気で、アジが沈黙するとフィッシュイーターがジグにアタックしてくる。海の中の様子が手に取るように分かり、それだけでも面白い。
「イワシ団子だ!」
だれともなく叫び声があがる。海面には半量ほどのイワシ団子が見え、そそくさといった様子で移動している。
「投げろ、投げろ!」
「バシュッ!」
ジグが飛ぶ。
ギョんッ!
竿が曲がる。
食ってきたのは、ソウダガツオとシイラだ。ハデで元気なシイラが、夏の名残を感じさせてくれる。ペンペンサイズだったが、SLJのライトタックルだとその引きは相当にダイナミック

エキサイティングな青物ラッシュへ
吉清船長のアグレッシブな操船で、まだウネリの残る外房の海を不動丸が駆ける。
ポイントを変えても、アジがよく釣れる。そして再びバタリとアジの食いが止まった直後、トモキの竿が大きく曲がった。
「なんだこれ……!」
すさまじい引きだ。ライトなタックルだから、大きく曲がった竿がワクワクさせてくれる。これはガチファイトになるぞ! パンツ!
竿が跳ね返った。トモキが苦しい表情になる。ラインブレイクだ。リーダーがブツブツと切られてしまった。
「残念! たぶん良型のマハタかな……」とヨッシー。
それにしても見事なまでに、アジの食い、そのアジを狙うフィッシュイーターたちの食いは運動している。